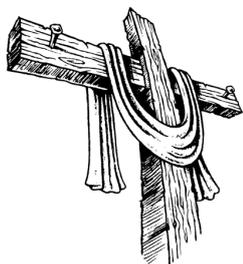


あなたはすばらしい (私たちに与えられた救いと聖化①)

創世記 1章26～31節



私たちはクリスマスに「救い主」であるイエスキリストの降誕を祝いました。では、「救い」とはどのようなことなのでしょう。

「救い」とは、単に直面する苦難の解決や、また逆に内面の心のことだけではありません。もちろん、「救われた」人とは宗教的な人になることでもありません。むしろ「救い」とは、神が意図しておられるもっとも人間らしい最高の姿への回復です。「救い」について知るために、まずは人間の本来の姿から。

① 神から始まる

“神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。” 創世記1:26-27

“しかし、母の胎にあるときから私を選び出し、恵みをもって召してくださった神…”

ガラヤ1:15

② 神のかたちとして

“神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」” 創世記1:28

“人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。

人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。

あなたは人を御使いより わずかに欠けがあるものとし

これに栄光と誉れの冠を かぶらせてくださいました。

あなたの御手のわざを人に治めさせ 万物を彼の足の下に置かれました。” 詩篇8:4-

③ 存在し、愛するために

“神である主は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。…神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。…また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」…” 創世記2:7,15,18

<考えてみましょう>

- ・聖書は、私たち人間を神が造られた被造物として、それも「神のかたち」として造られた存在であることを教えています。このことは、私たち人間の尊さを考える上でどのように大切だと思えますか。